

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島とならんで温暖な地方である。しかし両総台地は内陸性気候で寒暑の差はやや大きく、反対に太平洋岸及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かく、特に房総南部沿岸地帯は冬も霜をみないほどである。

雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側及び銚子地方が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

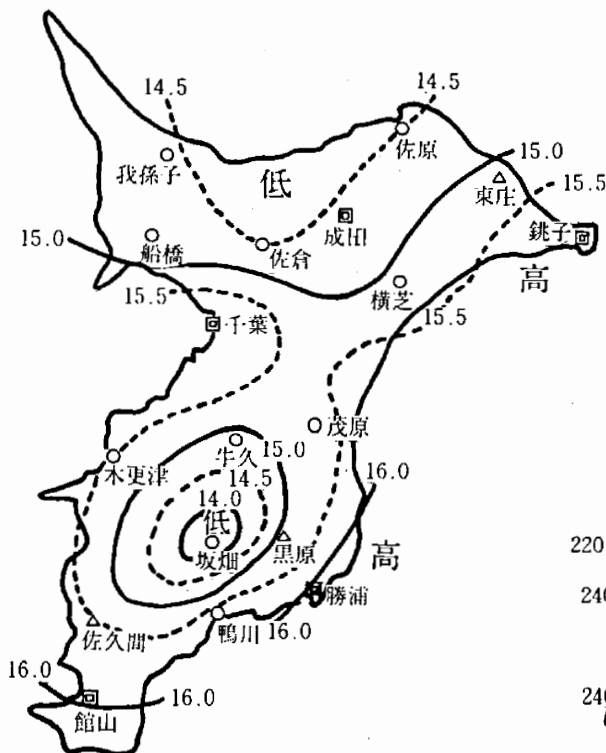
平成元年の気象の特記事項は次のとおりである。

3月4日、紀伊半島南部に発達中の低気圧があつて東へ進み、5日には房総沖を通過した。このため風雨が強くなり、特に黒原では総雨量80mm以上を記録し、東金市でがけ崩れの被害が発生した。

5月26日、伊豆半島付近に低気圧があり東北東へ進み、また、北日本を中心とする上空(約5,600m付近)に -15°C の寒気があり、大気の状態が不安定となり県内各地で激しい雷雨となった。特に木更津、袖ヶ浦、茂原ではひょうが降り、なし等の農作物に被害(1億1千万円)を与えた。

また、6, 7, 8, 9, 11月の各月には強雨や強風により、がけ崩れ、家屋の浸水、道路損壊等の被害があり、7月31日から8月2日にかけては、台風12号及び熱帯低気圧の影響で県南部を中心に死者を含め床上・床下浸水、がけ崩れ等、近年例のない大きな被害が発生した。

県内年平均気温(°C)



県内年降水量(mm)

